

平成29年度

施政方針

平成29年2月

飯山市

平成29年度 施政方針

平成29年3月定例市議会の開会に当たり、平成29年度に臨む、施政の基本方針を申し上げ、市民の皆様、並びに議員各位のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

北陸新幹線飯山駅の開業により、首都圏・関西圏などへの時間的距離が飛躍的に短縮され、新しい時代の幕が開き間もなく2年が経とうとしています。ウィンターシーズンには、昨シーズンに引き続き国内をはじめオーストラリア、アジアなど海外からも大変多くの観光客が新幹線を利用して訪れ、その効果が着実に現れてきております。

新たな「まち・ひと・しごと」の創生、自律的で持続的な社会の創生に向けて、昨年10月には、安定的かつ継続的な事業活動ができる起業者を育成し新たな雇用の場の創出を図るため、IT事業者によるサテライト・オフィスとしての活用にも対応可能な、飯山市起業支援センター「あすちやれ」をオープンしました。また若者定住・移住定住の推進に向けて、住宅の取得に対する支援などに加え、飯山駅近くに単身者でも入居できるIターン・Uターン者向けの賃貸住宅「移住定住促進住宅」の改修を順次進めているところです。現在、第1期分として募集しました10戸については、今年度中に全て入居の予定となっているところであり、追加整備分の10戸についても引

き続き改修を進めているところであります。

平成 29 年度は、飯山市第 5 次総合計画前期基本計画の総仕上げの年となるとともに、計画期間を平成 31 年度までとした総合戦略の中間点となることから、引き続き計画の着実な推進を図ってまいります。

ここで、市政を取り巻く国や県の状況等をご説明申し上げ、ご理解を賜りたいと存じます。

平成 29 年度の国の経済見通しでは、今年度の動向として、雇用・所得環境が改善する中、しっかりと成長していく道筋をつけるための「未来への投資を実現する経済対策」などの推進等により、景気は緩やかな回復に向かうものと想定し、また平成 29 年度においては、物価はデフレ脱却に向けての前進が見込まれるとし、民間企業設備投資の増加などにより国内総生産の実質成長率は 1.5%程度、名目成長率は 2.5%程度と見込まれております。

国の新年度予算案は、97 兆 4,547 億円、前年度当初と比べ 7,329 億円、0.8% 増の予算規模となったところです。経済再生と財政健全化の両立を実現する予算として、歳出では、成長と分配の好循環の確立に向けた重要政策課題に重点化し、社会保障関係費を 4,997 億円増額する一方、歳入では税収の増を 1,080 億円見込み、新規国債発行額は前年度から 622 億円の減額とし、公債依存度は 35.3%と前年度当初と比較すると 0.3 ポイント減少しております。しかしながら、平成 29 年度末の公債残高の見込みは約 865 兆円、国民 1 人当たりでは約 688 万円と見込まれ、借金が増加している状況に変わりはない

ところでは。

長野県にあつては、最終年度を迎えるしあわせ信州創造プランの着実な推進と信州創生の更なる飛躍に向け、「人口減少対策」「地域経済の活性化」「多様な働き方・暮らし方の創造」「個性豊かな地域づくり」「安心安全な社会の実現」を中心に予算編成が行なわれ、前年度比約 131 億円、1.5%減の 8,626 億円の当初予算案が示されました。また現場の最前線で責任を持って主体的に地域課題に向き合う「地域振興局」を本年 4 月に設置するとしています。

以上のような国・県の状況等を踏まえ、平成 29 年度の市政運営の基本的な考えについて申し述べます。

まず一点目は、「人口対策、子育て支援、移住・定住の推進」で、最重要政策課題として取り組んでまいりたいと考えております。

子育て関係についてはこれまでも様々な取り組みを行ってきたところです。平成 29 年度では飯山市における子育て支援の拠点施設として、児童センター、児童クラブ、子育て支援センター、病後児保育、放課後児童デイサービス機能を有した、仮称「飯山市子ども館」の建設に着手いたします。この施設の整備費用については、国や県からの補助金と交付税措置のある起債を活用し、その残りについては全国から大勢の皆様にご協力をいただいているふるさと納税により積立てられた基金を活用して行いたいと考えております。

移住・定住の関係では、移住定住促進住宅（サンコーポラス飯山）の取得につきましては、交付税措置のある起債を活用するなかで支払い期間の短縮を行うとともに、住戸および駐車場の改修を行い、Iターン・Uターンの促進を図ってまいります。また移住を考えている皆様に向けたセミナー・相談会・県等との協力によるフェアの開催や、各種媒体を使ってのPRを行うとともに、移住者の方の住宅取得や既存の空き家の活用に対する補助などの支援についても充実を図ってまいります。

定住の推進については、三世代が同居する住宅を新築・増築・改築した場合の補助制度の内容の見直しを行うとともに、新たな制度として就職する新卒者に対する支援の制度を創設いたします。

二点目は、「観光交流人口の増加」に向けた取り組みです。新幹線飯山駅が開業し、大勢のお客様が新幹線を活用して訪れるようになってまいりました。信越自然郷や近隣自治体等との連携による広域観光を推進するとともに、市内の観光コンテンツの充実を図り、ポテンシャルを更に高めていくための事業の拡充を進めるなどして、千曲川が流れ、そして四季折々のふるさとの原風景が残されている自然景観をはじめとする様々な魅力を発信し、全国そして世界各地からのお客様を迎える準備を進めます。平成29年度では、桜広場交流施設の利用者の増加に対応するための用地取得や市内の重要な施設・宝物である正受庵の周辺用地の取得を行い、植樹などによる周辺環境の整備に着手したいと考えています。また新たに、飯山市の資源の一つである

雪の利用について、どういう形で利活用できるかの研究をスタートし、合わせて「地域おこし企業人」を活用した観光振興についても推進をしてまいります。

三点目は、「次世代の育成・教育」です。現在、小中学生の学力の向上に向けて、学力レベルの把握を行うとともに、支援員の配置、算数・数学の小中高連携及び小中連携による英語指導の充実等を行っているところです。ICT教育の環境整備を継続して進めるとともに、児童生徒の国際感覚及び英語コミュニケーション能力の向上を目指し、小・中学校への外国語指導助手の配置に加え、平成 29 年度より中学生の英語検定受検費用に対する補助を行うなど、英語教育にも更に力をいれてまいります。

四点目は、「安心・安全な暮らしの確保」です。高齢者や弱者世帯等の屋根の雪下ろし等については、その費用に対する助成を行っているところですが、さらに住宅から道路までの玄関先の除雪への対応が必要なところがございます。転出者の一番のピークは高校を卒業してからの若年層ですが、同時に高齢者の転出も増えてきています。高齢になっても安心して住み続けられるための玄関先（けだし）の除雪体制の構築を、新たな取り組みとして地域の皆さんと共に取り組んでまいりたいと考えております。障がい者等に加えて中学生までの医療費に対する支援を図ってまいりました医療給付事業については、18 歳までの入院に係る医療費についても無料化とする制度の拡充

を図り、また新たに子どものインフルエンザワクチンの予防接種や新生児の聴覚検査、日本人の胃がんの原因と言われるピロリ菌検査への支援を行い、市民の健康増進を図ってまいります。

一方、こうした施策の推進には市民サービスに直結する財源等を生み出すため行財政改革の推進は不可欠であります。第5次行財政改革大綱の目標である「効率的で質の高い行政運営の推進」と「安定と活力ある財政運営の充実」による自立した自治体経営の実現に向け、行財政健全化プラン実施計画の取り組みを引き続き進めてまいります。

市民各位、議員各位のご理解ご協力をお願い申し上げる次第であります。

それでは、平成29年度の予算の特徴と施策概要を申し上げます。

予算総額は、一般会計で134億1千万円、前年度に比べ2億6千万円、1.9%の減であります。

歳入では、市税が新幹線駅及び関連施設並びに関係償却資産による固定資産税の収入見込額の増などにより前年度対比1億円増の24億円、地方交付税が前年度と同額の46億2千万円、地方消費税交付金が前年度比4千6百万円減の3億7千9百万円、また、ふるさと納税基金の活用、市債等で歳入確保をいたしました。

歳出につきましては、飯山市総合戦略の4つの基本目標に対する着実な推進のために必要な事業について、検証・再構築・見直し・拡充など予算の重

点配分を行ったところであります。

以下、平成 29 年度の重点施策に関わる事業について飯山市総合戦略の柱に沿ってご説明申し上げ、市の姿をご理解いただければと思います。

一つ目は、地域経済活性化・雇用創出についてです。

新たな人の流れと仕事の創出による活気あるまちづくりを進め、新幹線開業効果による地域の元気創出を推進してまいります。

「新たな産業と雇用の創出・人材育成の推進」については、飯山市起業支援センター「あすちやれ」の利用環境整備や、人材育成塾の実施などの創業、起業に向けた支援を図ってまいります。農業と福祉を連携させた、市の基幹産業である農業と障がい者の継続雇用のマッチングによる障害者就労継続 A 型事業所が地域に定着し、障がい者の自立促進とあわせ農地の有効活用が促進するよう引き続き支援を行い、農業の振興を図ってまいります。また次世代の農業を担い農村を維持していく人材を確保するため、新たに「飯山市担い手協議会」を設立し、また国の支援制度である青年就農給付金を活用した新規就農者等への支援を充実強化し、合わせて新たに農業後継者として親元就農される若い農業者や定年帰農者への支援を図ってまいります。

「地域産業力の強化」については、伝統的工芸品である手すき和紙の体験を行っている工芸交流センターの看板や作業工程を示す案内表示を外国語併記に変更し、インバウンド旅行者などへの対応を行うほか、三大都市圏に

勤務する大企業の社員が、そのノウハウや知見を活かし、一定期間、市内において、飯山市独自の魅力や価値の向上などにつながる業務に従事する「地域おこし企業人」の派遣制度を活用し、起業支援や地域活性化を図ってまいります。

また農業産出額の増加に向けて、基幹作物の活性化及び作付面積の維持・拡大、新たな基幹品目・品種の育成を図るための種苗代及び資材代についての補助を行うとともに、菌茸農家支援や養豚の母豚更新等の支援も図ってまいります。

「新幹線飯山駅を活用した観光交流人口の増加」については、大型観光キャンペーン「信州デスティネーションキャンペーン」を中心に、全市的な観光キャンペーンの展開を図るとともに、観光施設やイベントの内容の充実やおもてなし気運の醸成を進め、国内外からの誘客を促進します。また昨年12月に2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のホストタウンとして県及び県内自治体と共に登録を受けましたが、その一環として平成29年度は友好交流都市の中国深圳市福田区と、スポーツ・文化・学校交流などを行い、市民友好交流の推進、地域の活性化、観光振興等の推進を図ってまいります。

二つ目は、若者定住・移住定住推進についてです。

若者の結婚・出産等の希望をかなえ、若者の暮らしを支援するとともに幅広い世代の移住定住を支援し、飯山での魅力ある暮らしを提案・発信してま

います。

「若者定住のための条件、環境整備等」については、昨年実施しましたスローライフフォーラムにおいて市内の若者から提言のあった逸村逸品市の開催等の事業化や、地域おこし協力隊員についても3名から4名に人員を増やすとともに隊員の活動を支援してまいります。また子どもができにくく治療を受けている夫婦に、引き続き治療に関わる医療費への支援を行い費用負担の軽減を図ってまいります。

定住の推進に向けては、三世代が同居する際の住宅整備への支援を拡充するほか、新たに新卒者に対する支援制度として市内から通勤する場合の駐車場利用料金への補助や、市内企業に就職した場合の奨学金返済金に対する支援に取り組んでまいります。

「移住希望者の視点に立った総合的な移住定住対策」については、移住希望者に対する住宅新築や増改築、中古住宅購入支援での転入後補助対象年数や補助対象年齢の拡大などを図り、I・Uターンの移住定住推進に取り組んでまいります。

三つ目は、子育て支援・次世代育成についてです。

子育て環境を更に充実し、次世代を担う子どもたちの成長を応援し、「子育てするなら飯山市」の実現を目指してまいります。

「子育て支援の充実」については、放課後児童対策や病後児保育対策等の改善に向けて、老朽化が進んでいる城山児童館、上町児童センターの統合改

築に合わせて、子育て支援の拠点施設として、仮称「飯山市子ども館」の建設に着手するとともに、児童センター・児童クラブ等の開館時間を延長し、また経年劣化等の進む木島保育園の屋根・外壁の改修及び秋津保育園の熱気対策工事等の施設整備など保育環境整備を進めるほか、自信を持って子育てできる親及び家族の育成のための教室の開催や産後の育児支援を提供するなどにより、子育て支援・虐待予防・少子化対策につなげ、子育てしやすい環境の整備を進めてまいります。

「次世代育成・教育」については、飯山市教育大綱に掲げる「夢に向かい、自分の道を切り拓き、たくましく生きる力を育てる教育の実践」、「ふるさとを知り、ふるさとを愛する、地域に根ざした教育の実践」、「国際感覚を養い、新しい時代に生きる力を育てる教育の実践」、「個性や多様性を尊重し、共生社会をつくるための豊かな人間性を育てる教育の実践」、「地域・家庭・学校が連携して教育力を高め、地域に学ぶ生涯学習の実践」の5つの柱及び平成32年度までの目標実現に向けた取り組みを引き続き着実に進めてまいります。平成29年度は引き続き児童・生徒の学力向上への施策をはじめ、小学校3校に児童が使うタブレット端末等の整備を行うことと英語教育の充実を推進しつつ、中学生を対象にオーストラリアバーサースト校との訪問・受け入れ等相互交流を行うなかで語学力の向上、国際感覚の醸成等にも取り組んでまいります。

四つ目は、いつまでも安心して暮らせる地域づくりについてです。

いつまでも元気に暮らせる安全安心な雪国の地域づくりを進めてまいります。

「安心・安全な暮らしの確保」やその他については、まず防災関係では、現在使用している防災行政無線が導入から相当の期間が経過し機器の更新等が必要になっていることから、災害時等の情報伝達のための新たなシステムの検討を行います。

地域サービス関連では、本年 1 月から実施しました戸籍・住民票等のコンビニ交付サービスの市民周知を図り、更なる利便性向上に取り組んでまいります。在宅で生活する障がい者に対しては、緊急時における相談・訪問、ショートステイ用の部屋の確保など、24 時間・365 日の支援体制を北信圏域 6 市町村共同で整え、障がい者の地域での暮らしを支援してまいります。また生活困窮者に対しては、家計相談や生活困窮世帯の不登校児童の学習支援や居場所づくり、不登校の高校生等の通信教育を支援するなどの新たな取り組みを行い、自立に向けた支援を拡充してまいります。また産婦人科・小児科等の医師招聘及び飯山日赤への支援など地域医療の確保に向けた取り組みを引き続き行ってまいります。

全国からご協力をいただいております、ふるさと寄付金事業については、平成 29 年度においては 7 億円の寄付金を見込んでいるところです。新年度においても市内の特産品等の活性化にも大きく寄与することから、引き続き事業の推進を図ってまいります。

以上、施策の概要について申し上げます。

最後になりますが、先に申し上げたとおり、大都市圏からのアクセスの良さと、この豊かな自然環境・地域資源が併存する都市としての特色・魅力を生かしながら、住む人も訪れる人もその良さが実感できる飯山市づくりの実現を目指し全力で取り組んでまいり所存でありますので、市民各層の皆様の一層のご協力をお願いするとともに議員各位のご支援ご協力を心よりお願い申し上げます。

平成 29 年 2 月

飯 山 市 長 足 立 正 則